

南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを考えるワークショップ 令和4年3月6日（日）13:00～

南伊豆地域（下田市、南伊豆町、松崎町及び西伊豆町）は、人口減少等に伴うごみ量の減（施設稼働率の低下）や施設の老朽化といったごみ処理に関する共通の課題を抱えています。持続可能なごみ処理体制を継続していくため、1市3町の施設を集約化し、新たな施設で広域処理することを計画していますが、循環型社会の形成には、住民・事業者・行政が協力し、「ごみにしない」こと、「可能な限り資源化を行うこと」など、ごみ処理の各段階でできることを一緒に考え、地域全体で取り組んでいく必要があります。今回は、そのキックオフとして、ごみの減量化・リサイクルをテーマにワークショップ（意見交換会）を開催しました。



ワークショップは、市民、事業者、高校生及び1市3町の行政職員17名を4グループに分け、一般社団法人会議ファシリテーター普及協会の小野寺郷子（おのでら さとこ）さんの進行で行われました。ごみ減量に関するクイズからスタートし、和やかな雰囲気のもと、グループ内での役割を交代しながら、「身近にできること」から「1市3町でやれたらいいな」と考えることまで、自身の経験なども交えた活発な意見交換が行われ、特徴的と考える3点について、グループごとに発表していただきました。

様々なアイデアが発表される中、参加者全員による投票の結果、Cグループの「空き家を不用品の交換会場として活用する」が最も票を集めました。

下田高校の生徒4名も積極的に発言し、「家庭で出た不用紙の裏面を学校（勉強）で活用する」「冷蔵庫を小さくし、買いだめ（食品ロス）を防ぐ」など、皆も驚くアイデアを披露してくれました。また、一般社団法人静岡県環境資源協会の杉山一弥（すぎやま かずや）さんには、専門家の立場から様々な発言・助言をしていただきました。

Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
<ul style="list-style-type: none"> • 毎日買い物に行かない • 賞味（消費）期限を確認してから買う • 冷蔵庫の中身を確認してから買い物に行く • 詰め替えできる製品を買う • 廃品回収を再認識する • 雑がみ回収でごみのかさを減らす • 誰でも分かるごみ箱を導入する • 生ごみは畑に埋める • リターナブル瓶を復活させる • 学校教育でごみについて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> • 三角コーナーを重しで加圧する（生ごみの水切り） • 生ごみ処理機に購入補助制度があることを多くの人に知ってもらう • 廃棄物から芸術作品を作り、観光客にプレゼントする • 修理やリメイクをして販売する • 量り売りを導入する • エコバッグ、マイバッグ、マイ箸を利用する • リサイクル品に応じたポイント制度を導入する • デPOSIT割を導入する • 近所でおすそ分けをする • ごみの処理成果をお知らせする 	<ul style="list-style-type: none"> • 古紙は油料理の後始末に使う • 必要のない割り箸などは断る • マイバッグを常用化し、レジ袋は断る • 余った食品の保存になるべくラップを使用しない • ニンジンや大根の皮は捨てずに調理する • 子供の食事は少なめに盛り、食べられるようならおかわりしてもらう（食べ残しを減らす） • 空き家を不用品の交換会場として活用する • 空き地を生ごみを埋める場所として活用する • 回覧板や駅・電車等を活用し、繰り返し広報する • ポイント特典などの仕組みを作る 	<ul style="list-style-type: none"> • 生ごみの再利用（たい肥化） • 家庭で出た不用紙の裏面を学校で活用する • 必要な分だけ作る、買う（食品ロス削減） • コーヒーかすを虫よけとして使う • ダンボールコンポストを周知する • マイバッグ、マイカップ、マイ箸を利用する • 冷蔵庫を小型化する（買いだめ防止） • チラシ、ペーパーは回収に回す • アンケートを紙ではなくオンライン化する • 着物等はバッグなどにリメイクして再利用する

○ワークショップ参加者の意見

(ワークショップの内容や進め方について)

- ◇少人数のグループでの話し合いだったので、各人が話ができてよかった。
- ◇時間が足りないと感じた。
- ◇全く知識を持っていなかったが周りの方々に色々なことを聞かせていただいたりして、テーマについて深く考えることができました。
- ◇個人から出た意見・アイデア（付箋に書いたこと）を一つ一つ紹介したかった。
- ◇あまりごみなどの知識を持っていない自分でもごみについて深く考えることができる素晴らしい進め方だったと思う。
- ◇時間、内容ともにちょうどよかったです。
- ◇解りやすかったが、長時間で疲れた。
- ◇話を深められたので今回の進行はとてもよかったと思います。
- ◇小野寺さんが明るく進めてくださったので最後まで楽しかったです。
- ◇地域の意見が聞けると良かった。
- ◇グループワークであったので、意見の話し合いが気軽にできた。

(今後考えてみたいテーマについて)

- ◇プラスチックやビニールごみを自治体で回収できたらよいと思います。
- ◇南伊豆地域にもっともよいごみ処理について
- ◇処分法→製品づくりにつながるもの（販売）
- ◇ごみの減量化推進
- ◇実践的な方法（実現可能な方法）
- ◇ごみ減量化に対する知識をつけたい
- ◇コロナが落ち着いてからの観光客の増やし方
- ◇家庭でできる簡単ごみ減量講座なんかあれば気軽に参加してくれる人が増えそう。
- ◇広域ごみ処理事業はまず個人ができる簡単なことから。
- ◇1つのところにしかごみ処理場がなかったらそれまでよりごみ収集車が排出する有害なガスが増えてしまうのではないかと。（移動距離が長くなるから。）
- ◇リサイクルできるものの種類（プラスチックなど）を増やす。
- ◇1市3町でのそれぞれの課題をまず、理解することが大切で、そこからテーマにつながるかと思っています。
- ◇食品ロスについてできること、マイクロプラスチックを減らすこと。

○ワークショップの開催に当たり、ごみの減量化、再利用、資源化等に関し、既に実践している取組や工夫している点などを募集しました。

寄せられたアイデアは参加者と共有し、意見交換の際に活用させていただきました。

- ☆家庭用生ごみ処理機を購入し使用した結果、半分以下の減量化に成功した。地域の皆で取り組めばもっと大きな減量化につなげることができると思う。
- ☆昼食のお弁当を注文する際、ビニール袋に入れないようお願いしている。これまで飲み物を飲む際に使用していた紙コップの使用をやめ、マイカップを持参し洗うことでごみの減量化を図っている。
- ☆庭の隅にコンポストを設置し、生ごみ、落葉、ぬか等を入れて堆肥化している。
- ☆食品トレー、牛乳パック等はスーパーマーケットの分別収集を利用している。
- ☆海洋プラスチックごみが深刻な問題になっているので、小中高生に海岸の現状を実際に見せ、清掃活動に参加してもらうなど体験型の環境学習に取り組んでみる。
- ☆所属している団体で年に数回、不用品を持ちよりバザーを開催しているが、大変好評である。
- ☆容器包装の多い商品をできるだけ買わないようにしている。
- ☆野菜くずは畑に埋めている。また食品ロスがないよう再調理して食べるようにしている。
- ☆古い下着は雑巾にして使っている。
- ☆野菜くずは2、3日乾燥させて土に埋めたりコンポストに入れている。茶がら、コーヒーかすはお茶パックに入れ消臭剤として使っている。
- ☆生ごみを減らすために畑や庭の土に埋める。庭がない家庭でも大きなプランターなどに土を入れればそこに埋めることができる。
- ☆リフィル（詰め替え、量り売り）の啓発。他の自治体では、量り売りの店舗が増えているところもあり、県の事業として行っているところもある。
- ☆公園、カフェ、図書館等の地域の交流の場に、ごみ集積場（リサイクルセンター）を複合的に整備する。
- ☆「環境に良い」というキーワードを誘導しない。環境配慮に対する意識の高い人は少数派で、提供側も意識の高い人にだけ自分たちのサービスを利用してもらうのではなく、むしろ一般の方々にいかに自分たちのサービスや商品を利用してもらうかを考える。

◎ワークショップに参加していただいた皆様、アイデアをお寄せいただいた皆様、誠にありがとうございました。